

# 石見銀山と博多商人神屋寿禎

九州大学 佐伯弘次

## はじめに

\* 『輝き再び石見銀山』 山陰中央新報社、1998年

\* 2007年7月、世界遺産に登録決定

## 1. 石見銀山と神屋寿禎

### (1) 石見銀山と神屋寿禎の伝承

大永6年(1526)、銀峯山(仙の山)に銀鉞を発見

天文2年(1533)、銀鉞の精錬に成功(灰吹法)

### (2) 「銀山旧記」類に見える神屋寿禎

a 「おべに孫右衛門縁起」 b 「石州仁万郡佐摩村銀山之初」(銀山始り縁起)

c 「銀山記」 d 「銀山旧記」

表1 「銀山旧記」等における神屋寿禎の記述

|   | 発見者  | 発見契機              | 入山年      | 入山者          | 同行者                         | 銀山正主                         | 銀吹年      | 銀吹人            |
|---|------|-------------------|----------|--------------|-----------------------------|------------------------------|----------|----------------|
| a | —    | —                 | 大永6.3.23 | 三島清右衛門       | 吉田与三右衛門<br>同藤左衛門<br>おべに孫右衛門 | 三島清右衛門<br>神屋寿貞(代官<br>小田藤左衛門) | 天文2.8.15 | 博多慶寿禎門         |
| b | —    | —                 | 大永7.3.23 | 三島清右衛門       | 吉田与三右衛門<br>同藤左衛門<br>於紅孫右衛門  | 三島清右衛門<br>神屋寿貞(代官<br>小田藤右衛門) | 天文2.8.5  | 博多慶寿禎門         |
| c | 神屋寿貞 | 出雲に向かう途<br>中銀光を見る | 大永6.3    | 三島清右衛門       | 堀子大工<br>吹屋大工小紅孫<br>右衛門      | —                            | 天文2.8    | 神屋寿貞<br>博多宗丹   |
| d | 神谷寿亭 | 出雲に向かう途<br>中光を見る  | 大永6.3.20 | 神谷<br>三島清右衛門 | 吉田与三右衛門<br>同藤左衛門<br>於紅孫右衛門  | —                            | 天文2.8.5  | 寿亭<br>宗丹<br>桂寿 |

### (3) 博多の近世地誌に見える神屋寿禎

\* 『石城志』(1765年)巻七；

①神屋寿禎が妻子を捨て、明に数十年留まって「銀の吹よう」「錫・鉛より銀を取事」を習

得して帰国し、石見銀山をはじめ諸国に金山（銀山）を起こした。

②「近年、石見国かな山の者来りて、博多に神屋寿貞といひし人の子孫有やと問、同処に波底寺といふ真宗（イ真言宗）の寺あり、是を再造せんとして、棟札をおろし見るに、筑前博多住神屋寿貞建立と有よし語れり」。

## 2. 同時代史料に見える神屋寿禎

(1) 「策彦入明記」「御祓賦帳」に見える神屋一族

\*小葉田淳（1969）；

第十八次遣明船派遣時；総船頭神屋主計・神屋彦左衛門・主計の養子太郎左衛門・神屋加斗・神屋彦八郎・神屋寿禎・主計の子息次郎太郎・主計の婿孫八郎ら。このうち、総船頭主計・太郎左衛門・彦左衛門らが入明。第十九次遣明船には神屋新九郎が明に渡航。

表2 「中国・九州御祓賦帳」に見える神屋一族

| 史料     | 西暦   | 人 名                                    |
|--------|------|--|
| a享禄5年  | 1532 | はかたこせうじかすゑ（博多古小路主計）                    |
| b永禄7年  | 1564 | はかた神屋主計・神屋四郎・神屋彦左衛門尉・神屋彦八郎・神屋与四郎       |
| c元亀元年  | 1570 | 神屋一以斎・神屋主計・神屋太郎衛門・太郎衛門子息四郎・神屋彦八郎・神屋与四郎 |
| d天正14年 | 1586 | 神屋宗滴入道・神屋太郎左衛門                         |

(2) 「策彦入明記」の神屋寿禎

表3 「初渡集」に見える神屋寿禎

| 年月日               | 記 事                               |
|-------------------|-----------------------------------|
| 天文7 (1538) .12.28 | 統上司公老親寿禎、山芋・牛蒡・酒を策彦に恵す。           |
| 8(1539).1.6       | 寿禎来臨し、扇子を策彦に贈る。                   |
| 2.4               | 神屋寿禎設斎。春叟元仲三十三白忌。                 |
| 10(1541).7.3      | 博多船来る（肥前斑鳩）。神屋寿禎、斗合二合（博多酒）を策彦に恵す。 |
| 7.13              | 神屋寿禎、大斗合一ヶ・茄子一盆を策彦に恵す。            |
| 7.21              | 策彦、博多衆に贈物をする。神屋寿禎に天目黒台一ヶを贈る。      |

\*天文八年二月四日条の神屋寿禎の設斎；

「春叟元仲禪人」の三十三白忌（回忌）の仏事。遣明正使湖心碩鼎が焼香し、偈を記し、

副使の策彦も参加した。三十三回忌であるから、春叟元仲の没日は永正4年（1507）2月4日にあたる。春叟元仲は「統公上司北堂之父」とあり、三正の「北堂」＝母の父。三正の母とは寿禎の妻であり、寿禎は義父の三十三回忌を湖心・策彦の両遣明使を招いて行った。この時の香偈の一つに「令子令孫皆大器」（「頤賢録」）とあり、令子の一人は寿禎の妻、令孫の一人は三正である。この一族から人物が出ていることを述べている。春叟元仲—寿禎妻—三正という系譜関係。

\*子の三正；

策彦の宿所龍華庵（聖福寺の寮舎）の主人であり、策彦ともに二度入明。「策彦入明記」に随所に登場する。ほとんどが策彦との贈答関係と宗教行事への参加の記事である。「初渡集」天文八年三月九日条に「龍華三正統上司恵斗合兩箇、俗弟小四郎恵蜜一桶」。この「俗弟」を直前の三正統上司に懸けて理解すると、三正の弟つまり寿禎の子息として神屋小四郎の名前が検出できる。

### （3）小田藤左衛門の実像

小葉田淳（1969）；小田藤左衛門＝博多の人物で、第十九次遣明船の一号船船頭であり、寧波で客死した。

「大明譜」に「一号船頭博多津小田の藤左衛門尉、但寧波にて死了、子弥五郎有」とある。「再渡集」嘉靖二十七年（一五四八）正月七日条に「船頭小田藤衛門、設計待予及土官・御用人等、酒五行」という記事。

「一号船頭継子弥五郎」（嘉靖二十八年九月七日条）とあるのが、「大明譜」の「子弥五郎」に相当する。

## 3. 神屋寿禎の系譜

### （1）研究史

\*神屋寿禎の系譜；

『石城志』卷之九「神屋伝」；神屋氏は本姓菅原氏で、その先祖は神屋永富であり、永富は「京東八幡宮管領職」。永富以降の系譜は、永富—主計—寿禎—宗湛—紹策—宗湛。

嘉靖十九年（一五四〇）十月十一日、寧波の遣明正使湖心碩鼎の館で、神屋主計の亡父潤屋永富禅門三十三白諱辰追薦のため懺法が行われた（「初渡集」同日条）。すなわち主計の父潤屋永富の没年は永正五年（一五〇八）。

\*『石城志』卷之十「神屋伝」の神屋宗湛三男の神屋祐仙（四郎兵衛）家の系譜

\*江島茂逸・大熊浅次郎『商人亀鑑 博多三傑伝』（1892）；

神屋永富について「常に外商を営み南蛮阿媽港に往来して遂に彼地へ日本町を築くに至

る（博多記）実に博多商人外国貿易の鼻祖たり」と記している。これに続けて、神屋氏の系譜を記す。

## （2）同時代史料から見た神屋寿禎の系譜

神屋寿禎に関しては、「寿貞十三年忌香語」が湖心碩鼎（博多聖福寺の第百五世、遣明使節）の詩文集「三脚稿」（『続群書類従』13輯下）に存在。この十三年忌香語（法語）の「寿貞」は神屋寿禎である可能性が高い。

湖心碩鼎「頤賢録」という語録があり、「利翁寿貞」の年忌における香語を数種類収録。

表4 神屋寿禎関係の法語

| 年忌   | 法語            | 年代               | 出典  |
|------|---------------|------------------|-----|
| 七回忌  | ①利翁寿貞七年忌法語    | 天文21年(1552)孟冬念二日 | 頤賢録 |
| 〃    | ②利翁寿貞七周忌偈頌    | なし               | 頤賢録 |
| 十三回忌 | ③寿貞十三年忌法語     | なし               | 三脚稿 |
| 十七回忌 | ④利翁寿貞禪門十七年忌法語 | 永禄5年(1562)小春念二日  | 頤賢録 |

七回忌が天文21年(1552)孟冬(10月)念二(22)日であり、十七回忌が永禄5年(1562)小春(10月)念二(22)日であるので、神屋寿禎の命日は天文15年(1546)10月22日であることが判明。

①によると、この七年忌は、三正首座が湖心に提供して依頼し、宗浙によって営まれた。寿禎の近親者としては、「孝子龍華主人三正首座」「居士之后室妙栄大姉」「令嗣宗浙信男」の名あり。三正とともに宗浙は寿禎の子。宗浙は神屋文書の戦国末期の文書にも所見あり。また、三正が白銀百両を湖心に提供し、妙栄が「本宅」を荘厳し、宗浙が「別業之新」を飾って「十々珍味」を備えて仏事を行った。神屋寿禎家には、「本宅」と「別業」の持ち家が存在。

④によると、「其息宗浙・宗白」の存在が記されている。宗浙は①の宗浙と同一人。宗白という子息もいたことが明確。この寿禎と宗浙・宗白の系譜関係は、『石城志』卷之十「神屋伝」や『商人亀鑑 博多三傑伝』の記述と一致。

「頤賢録」には神屋主計家に関する法語「嘉翁惟靖之記」あり。「総船頭神屋主計運安・其子長秀、伴乎予到北京」とあり、神屋主計の実名が運安（大内氏の筑前守護代杉興運の一字授与か）、子の太郎左右衛門の実名が長秀であったことが判明。

## （3）同時代史料から見た神屋寿禎と石見銀山

「銀山記」「銀山旧記」には、神屋寿禎が山陰地方に航海した目的を、出雲鷲の銅山産出銅の買い取りとする。銀が朝鮮への主要な輸出産物となる以前は、銅・錫・硫黄等が主要な輸出産物であり、特に銅の輸出が重要であった（小葉田1976）。朝鮮に輸出された銅

の主要生産地は中国地方。

\*『商人亀鑑 博多三傑伝』;

石見国宅の浦の真言宗寺院波底寺（波啼寺）に伝わった棟札の銘文を記す。

「天文五年丙申五月十五日上棟、筑前国石城府袖之湊博多津之住人神屋寿貞建立」

この棟札は、『石城志』が記す棟札と同一のもの。寿禎と石見地方の直接的な関係を示す唯一の同時代史料。天文5年は1536年。「石城府」「袖之湊」は博多の異称。

#### 4. 博多遺跡群における「古小路」の調査

(1) 第2次調査地点（未報告）

店屋町99（古小路ビル）

(2) 第61次調査地点（『博多24』福岡市教育委員会、1991）

店屋町182-1~5

(3) 第159次調査地点（『博多116』福岡市教育委員会、2007）

店屋町102・103-1

#### おわりに

\*神屋寿禎の人物像

「嶋井宗室遺訓」（慶長15年〔1610〕正月15日）

① 「寿貞ハ生中、薪・焼物われと聖福寺門之前にて被買候」

② 「又米のたかき時ハ、そうすい（雑炊）をくわせ候へ、寿貞一生そうすいくわれたると申候」

\*東アジアにおける石見銀山の位置 ～双方向性

#### 〔参考文献〕

江島茂逸・大熊浅次郎『商人亀鑑 博多三傑伝』（博文館、1892年）

小葉田淳『日本鉱山史の研究』第二部Ⅲ石見銀山（岩波書店、1968年）

小葉田淳『中世日支通交貿易史の研究』（刀江書店、1969年、初版は1941年）

小葉田淳『金銀貿易史の研究』（法政大学出版会、1976年）

小林准士「解題一『銀山旧記の成立事情』一」（『石見銀山史料解題 銀山旧記』2003年）

佐伯弘次「戦国時代の博多商人」（『博多研究会誌』10、2002年）

佐伯弘次「博多商人神屋寿禎の実像」（九州史学研究会編『境界からみた内と外』岩田書院、2008年）

島根県教育委員会編『石見銀山史料解題 銀山旧記』（島根県教育委員会、2003年）

武野要子『神屋宗湛』（西日本新聞社、1998年）

牧田諦亮『策彦入明記の研究 上』（法蔵館、1955年）